

市場規模1000億円間近

海外投資家も熱い視線

レンタル収納スペースの市況が旺盛だ。この10年間で施設数は2倍近くになり、市場規模は2027年度に1000億円に到達する見込みだ。海外の投資家の注目が集まっており、今後、大規模施設の開発が多くなると分析されている。

設から1年未満を除く施設の平均稼働率は83%と高水準で推移している。

また、レンタル収納スペース最大手のキュラーズによる収納スペースの市場規模調査では、24年度の市場規模は約880億円。27年度には1000億円に達すると試算しており、今後

成長が見込まれる。従来、海外転勤時の家財保管や、趣味物品の保管などで利用されてきたが、新需要も生まれている。「高齢化の影響で、親族の遺品を一時保管するといったニーズが増えてきた」とRSAの吉田得生代表理事で、総部屋数は約2000室。来春にしゅん工し、

うな大規模施設の建設に関心を持つ投資家も出てき「た」(吉田代表理事)。

レンタル収納市場



RSAとアジアセルフトレーディングが5月に共催した「アジアセルフトレーディング・エキスポ2025」には、多くの投資家も関心を寄せた。

また「国内市場の成長を受け、RSAに対し、米国家業種の企業が建設を進めてや欧州、東南アジアの投資家からの問い合わせが多くなっている。特に需要の高い都心で、ビル1棟をレンタル収納スペースにするよ

来春200室のビルしゅん工

近年、安定した投資先として物流施設が注目され、国内の大手不動産会社は